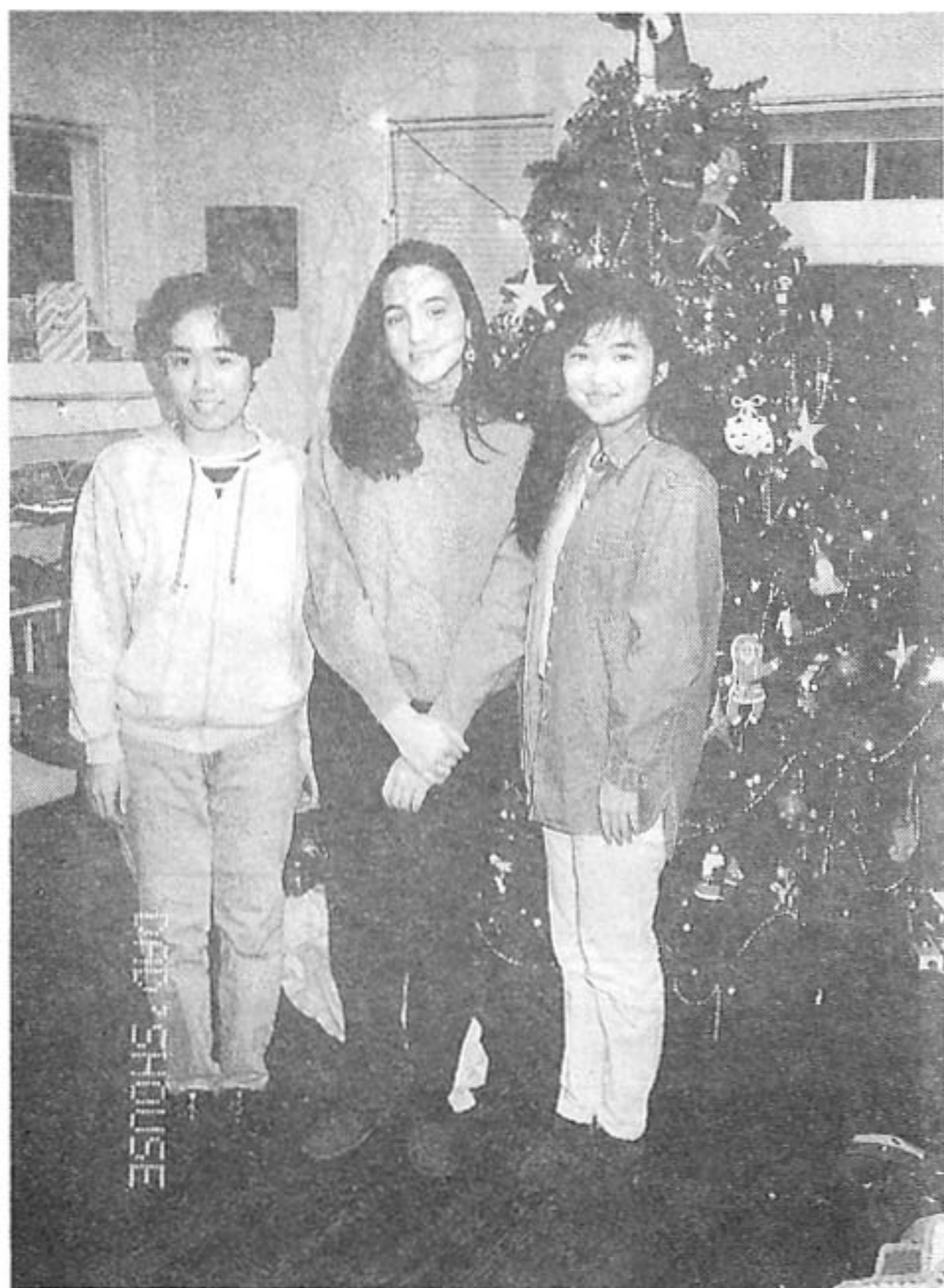


私達日本人にとって、アメリカとはまさに憧れの国であり、一度は行ってみたいと思う国です。その憧れの異国に私は23日間、異文化・国際理解を深める為にホームステイをしてきました。その中で私が見て、感じてきた生のアメリカを紹介しようと思います。...

12月25日、希望と不安の気持ちを抱えたまま私達は日本を離れました。もちろん私以上に、異国に自分の子供を送り出す親の方が不安で心配だったと思います。飛行機の旅も何事もなく無事終わり、目が覚めればそこはもうアメリカでした。その日のアメリカは、一年の行事で最も盛大なX'masの日でした。ポートランド空港には私のHOST SISTERのElizabeth (以降liza)と、HOST MOTHERのRosemarieが出迎えてくれました。知っている限りの英語の挨拶や自己紹介をすると「You're good at speaking English!」と二人に褒められたので、一生懸命会話を勉強してよかったなあと、とても嬉しかったです。幸先がよいスタートが切れたように思いました。彼女達の家へは車で行きました。外の景色は日本とは全く違って、まるで映画の世界にいるような気分になりました。家にはHOST BROTHERのDavid (以降Dave)とRosemarieの恋人のSteveがいました。Daveも私の名前を一生懸命練習して覚えてくれて、「Sanae」と何度も声をかけたりしてくれて嬉しかったです。

X'mas dinnerはSteveが作っていました。Steveは料理が得意で、パンやケーキをいつも焼いてくれました。特に今日は腕を振って料理をしている様でした。



男性が料理をするということは、まず日本の男性には考えられないことなのでびっくりしました。夕食までの間、私達はプレゼント交換をしました。私からは一人一人に日本のお土産を渡しました。みんな珍しそうに観察したりして喜んでくれました。そして私にまでも、家族の一人一人からX'masプレゼントをいただきました。予期せぬプレゼントだったので、びっくりしました。一つひとつ丁寧にラッピングされていて、どれも心のこもった、物でとても嬉しかったです。何度も「Thank you!」と言うと「You're welcome」と笑っていました。

夕食の時間がくると、lizaがテーブルセットをして、Daveも食器を運んだりして、みんな席に着きました。

食事前は、五人で手をつないでキリストへの感謝の挨拶をしてから食べ始めました。食事はTVや雑誌でしか見たことのないようなものばかりで、どれから手をついたらよいかと悩んでしまいました。まるで超高級レストランで食事をしている気分でした。



食事後、音楽を聞きながら私の家族・学校それに札幌のことや、lizaの家族・学校のことなどについて、おしゃべりをしました。

lizaは私にゆっくり、易しい英語で話しかけてくれるので、私でも理解することができました。どうしてもわからない単語があった時などは、辞書をひいたり、ジェスチャーをしたりして理解します。その一つひとつの積み重ねが、コミュニケーションとなっていくのではないかと思います。

Daveは10歳でいたずら好きの元気な男の子で、いつもlizaに噛みつきこうとしたり、ちょっかいをかけたりして、いつも二人は楽しそうにじゃれあったりしていますが、時々ケンカにもなります。二人は5歳も年が離れているのにとても仲が良いです。私にしては羨ましい限りです。lizaは一度千葉を訪れたことがあるので、日本語も上手だし、日本についてもよく知っています。それに異国に一人でホームステイする時の心境やホームシックにかかる時のことなどを自分も体験してきているので、私の気持ちを一番わかってくれました。だから時々、言葉が通じない私がポツーンと一人でいる時などは気を使って話しかけてきてくれたりします。

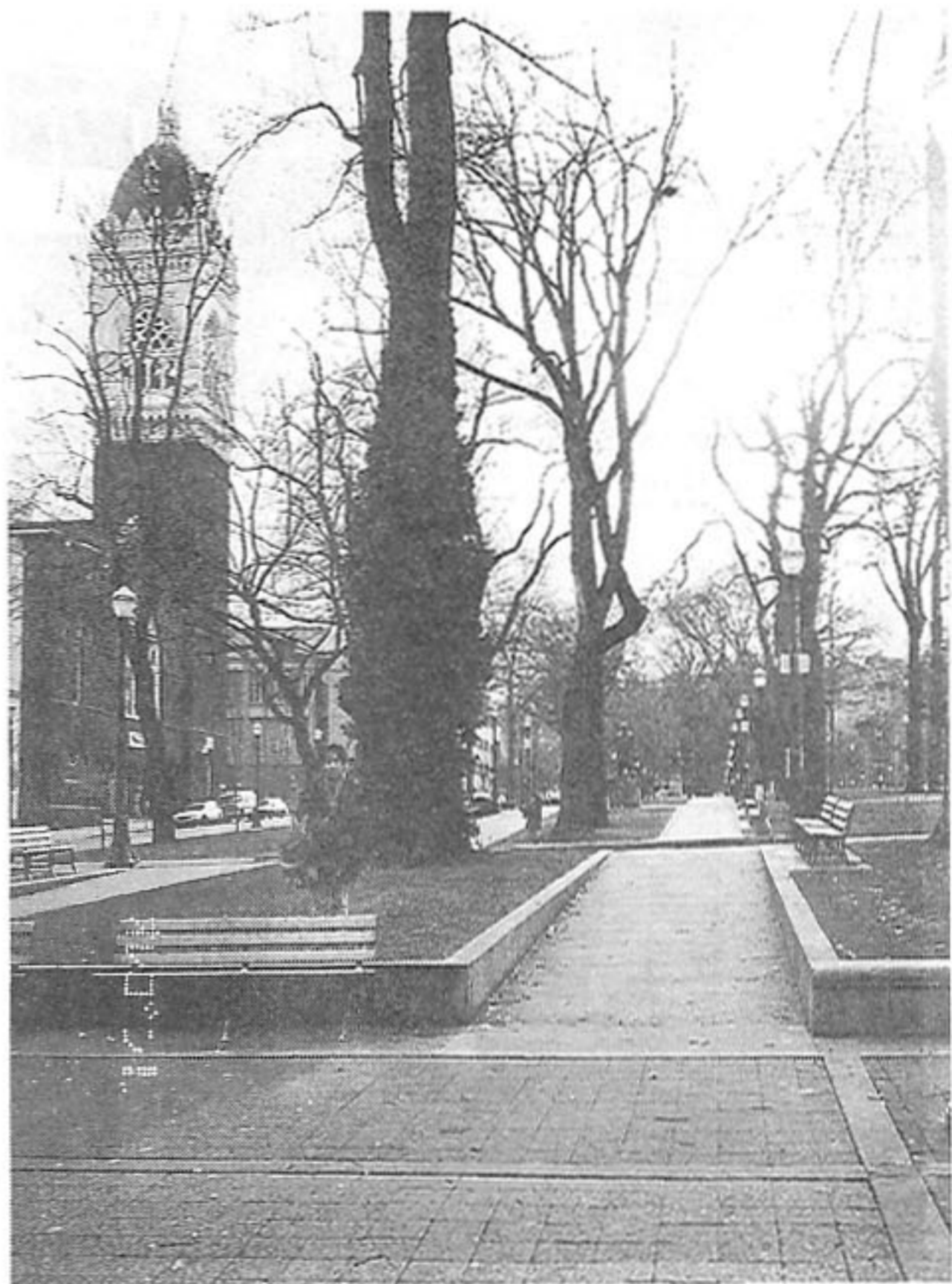
12月27日はAyaの家で私達6人の日本人生徒の為に各自のHOST FAMILY達も集まってWelcome partyを開いてくれました。それぞれの家庭から料理をもちあって、informalなパーティで私達も気を使ったりせずに気楽に参加できました。日本人生徒もアメリカ人生徒もみんな混ざって、お互いに自分のことを紹介したり、自分のHOSTを紹介したり、私達も一生懸命つたない英語を話して、年令もほぼ同じなので、お互いに気心も知れてみんなすぐに仲良くなりました。みんなでお手玉をしたり、Ayaがチアガールなので、その踊りを教えてもらってみんな練習して踊ったり、日本人生徒からは「すし食いねえ」の歌を皆に

贈り、アメリカ人生徒からはAyaとlizaがフランク・シナトラの歌を歌ってくれました。そうやって笑っているうちにあっという間に帰宅時間がきてしまいました。一つだけ悔やまれることは、自分の英会話力でした。もっと上手に英語を話せたら、もっと私のことを理解してもらえるのになぁと思いました。

12月28日からはHOST FATHERのMikeの家に一週間過ごすことになりました。

lizaの両親は離婚していて別居中で、lizaとDaveが一週間ごとに二つの家を往復して暮らしているのです。普通アメリカで両親が離婚していて再婚していない場合、子供達は母親の方に引き取られるそうですが、この家庭はまれに見る家庭環境です。MikeにはMalsaという恋人がいます。彼女は他の家に子供が二人いるので、この家には一週間に二・三度くるそうです。

今日は“Ladies of the Camellias”というシェークスピア原作の劇を見に行きました。





セットも迫力があって、圧倒されました。もちろんセリフは全て英語でしたが、席が一番前だったので、出演者の表情などがよく見えたし、周りの雰囲気でも内容が理解できました。お客さんの席の方へ出演者が走っていったり、ターザンの様にロープにぶら下がって登場する人がいたりして、私も周りにつられて大声で笑っていました。

12月30日は27日のパーティーで会ったメンバーでLLOYD CENTERという所に行きました。もうみんなすっかり仲良しになっていました。まずみんなでその中央にあるスケートリンクでスケートをしました。みんな上手で私も一生懸命後れないように滑りました。それから食事をしました。13人以上の集団がテーブルをくっつけてみんなで食べました。日本の俳優の話になり、Ayaは江口洋介を「かっこいい!」としきりに言っていました。日本の芸能人がアメリカ人に認められたような気分です。嬉しかったです。食事後、みんなで買い物をしてからお別れをしました。

12月31日、日本で言えば大みそかですが、もちろん大掃除なんてしませんでした。年はMalsaの家で過ごすことになりました。彼女の家はポートランド郊外にあり、lizaの家の周りとは全く様子が違いました。家に着くと彼女の子供のRobinとCaseyがいました。Robinは14歳で私より年下なのに大人っぽく見えました。彼女もスキーが好きだということで、二人でスキーの話で盛り上がりました。Caseyは12歳で、彼もずいぶん大人っぽくてとても12歳には見えませんでした。食事までの間、lizaと二人で年賀状の書き合いをしました。書き終わるとお互いのものを交換しました。私がlizaに書いてあげたやつは富士山の絵を描いて“あけましておめでとう”と大きく書いた年賀状です。lizaからはまわりに色とりどりの風船が飛んだ絵で、“HAPPY NEW YEAR”とこれまた大きく書いてありました。互いに喜び合いました。食事の時間が来ると、みんな一斉に集まりました。とても豪華でX'masの料理を思い出しました。食事後はliving roomでくつろぎながらビデオを見ました。英語にはもうだいぶ慣れて、字幕や吹き替えがなくても内容を理解することができました。

あと30分でNew yearという時になると、みんなで年越しの準備を始めました。Malsaは“年越しラーメン”を作ってくれました。それを食べてから、一人一人シャンパンを持ち、TVでNew Yorkからの生放送をやっていて、あと10秒になると、みんなでカウントを始め、0になると同時に乾杯をして、口々に「Happy New Year」と言いました。みんなとても幸せそうで、去年の嫌なことをすっかり忘れたような感じでした。私の初めて家族と離れて迎えた新年はアメリカならではで、とても興奮するものでした。

4日からは学校が始まりました。学校の様子は日本とは全く違い、目移りのしっぱなしでした。周りのみんなも私が制服を着ていたのが日本の生徒だとわかったようで「おはようございます」とか声をかけてくれたので、嬉しかったです。私達は10日間も学校に通ったので、友達も増えたし、アメリカの学校について知ることができたし、貴重な体験をすることができました。本当に毎日が楽しかったです。





15日は日本へ帰る前の日でした。夜は「明日で学校の友達とはお別れなんだ。」と思うと、やり切れない気持ちでいっぱい寝つかれませんでした。朝起きると、雪で学校が休みになることもなく、普通通り登校しました。なんだか普通に挨拶をしただけで、その人との短い間の出来事を思い出して、涙が出そうでした。授業もあっという間に終わってしまい、とても緊張しました。最後の日本語の授業が終わった後は、みんな「さようなら」と声をかけてくれたので胸がじーんとしました。この場に一秒でも多くいたいというのがせめてものお願いでした。放課後は写真を撮ったり、お別れの挨拶をしました。みんなと握手をしたり、抱き合ってお別れを告げたりしましたが、涙をこらえて笑うのが精一杯で、「Good bye」と言うのが恐くてなかなか言えませんでした。6時から日本人生徒とそのHOSTの生徒でお別れ会をしました。みんなモリモリ食べながら学校のことを話したりして、その後外に出て、円陣を組んで声をかけ合い、近くのお店に行きました。みんなと過ごす時間がどんどん進んでいってしまうので、「時間よ止まれ！」と心の中で何度も叫びました。その日はみんな笑ってお別れしました。

16日、とうとうお別れの日がきてしまいました。朝に日本語の先生からTELがきて、後ろで生徒が「さようなら」と言ってくれたので、うれしくて涙が出そうでした。空港までの道のりはとても短く、外の景色が淋しく見えました。空港に集合すると、みんな昨日の気分のままで、とても元気で、写真を撮ったり食事をしました。そして、お別れの時間がきてしまいました。このメンバーがバラバラになるなんてとても信じられなくて、夢の中にいるような気分でした。抱き合ってお別れをしているうちに、「夏に会える」とわかっていても悲しくなって、今までのことを思い出してこらえていた涙が出てきて止まりませんでした。

私はアメリカに来て本当に良かったと思うし、こんな貴重な体験ができて本当に幸せです。全てが良い結果で終わらなく、時には言葉の壁にぶち当たって、気まづくなったりもしたけれど、それでもいつも笑顔で接してみんなはいつも私を励ましてくれました。この23日間の思い出と得たものを忘れず、今の学校生活を充実させていきたいです。

楽しかったです。本当にありがとう。



I'll never forget your kindness.  
Thank you!